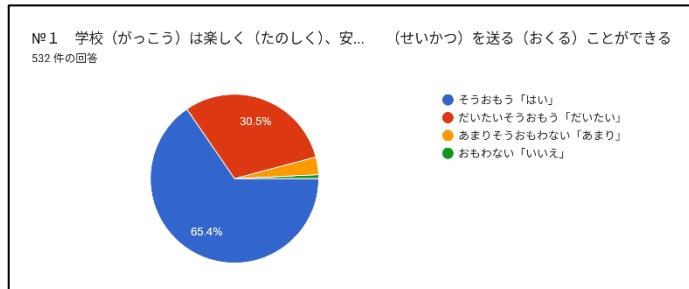


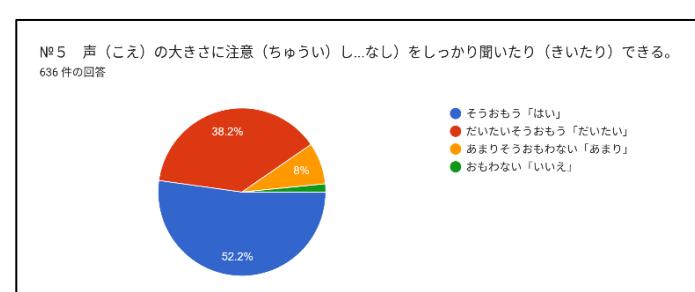
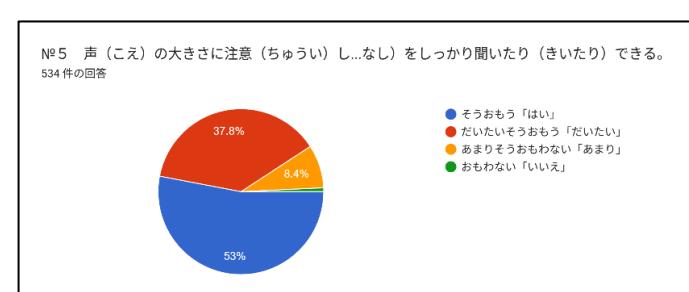
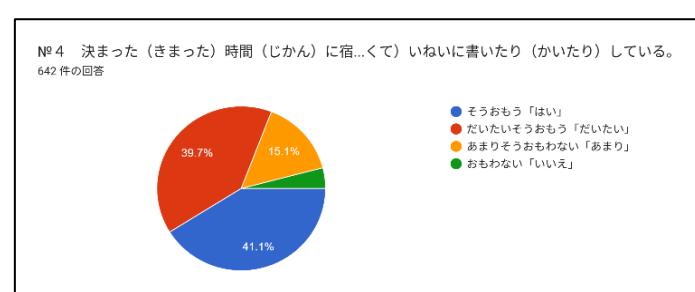
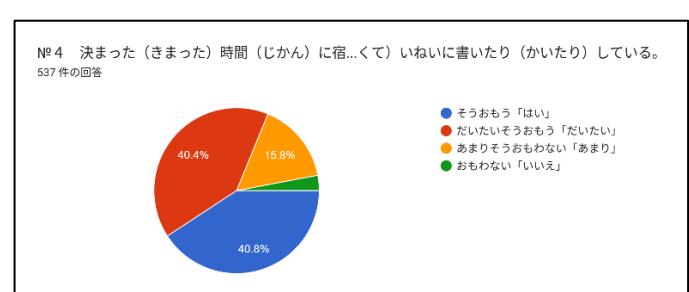
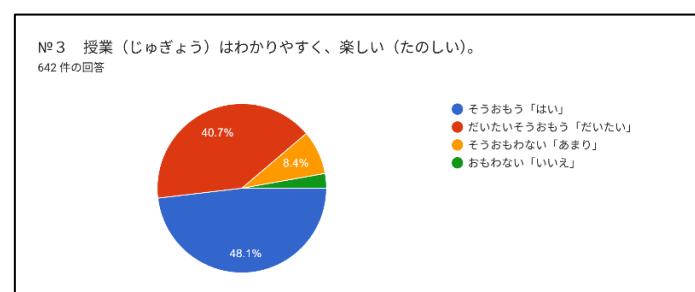
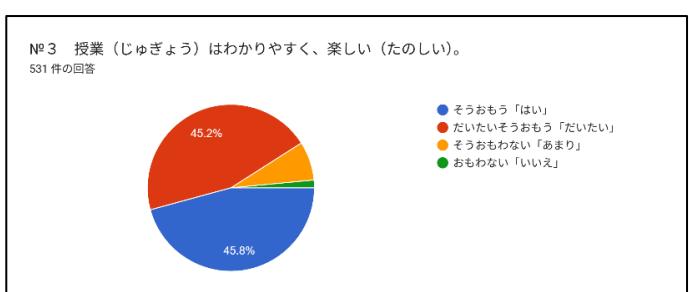
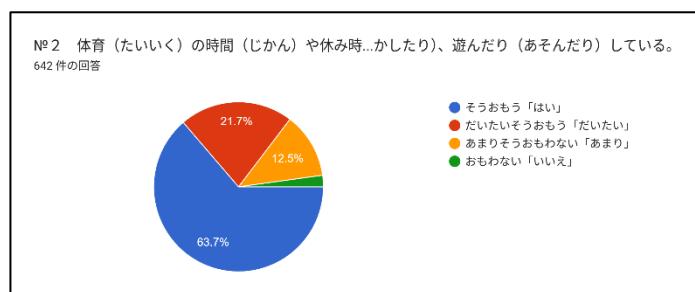
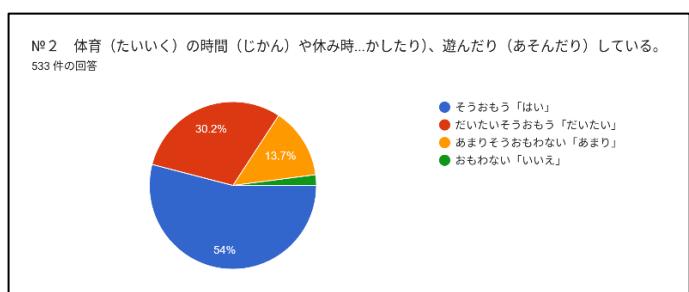
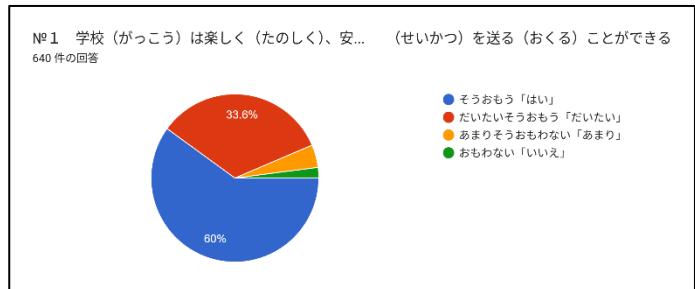
【児童・教職員・保護者】2学期学校自己評価アンケートまとめ

No.1 児童による学校評価「授業や生活についてのアンケート」結果報告

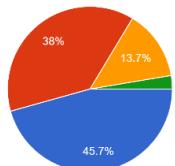
【1学期】



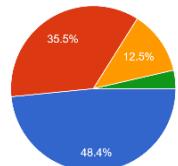
【2学期】



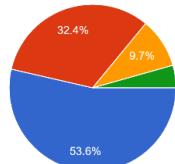
Nº 6 授業中（じゅぎょううちゅう）、ともだちと相...）をともだちに伝えたり（つたえたり）できる。
532 件の回答



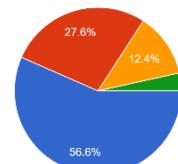
Nº 6 授業中（じゅぎょううちゅう）、ともだちと相...）をともだちに伝えたり（つたえたり）できる。
642 件の回答



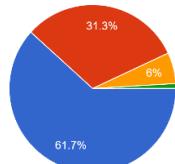
Nº 7 元気（げんき）よく、明るい（あかるい）あいさつができる。
528 件の回答



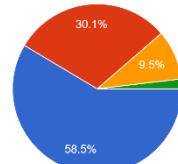
Nº 7 元気（げんき）よく、明るい（あかるい）あいさつができる。
638 件の回答



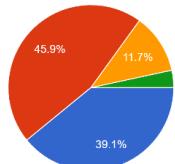
Nº 8 なかよし学級（がっこう）との活動（か...しく（たのしく）活動（かつどう））ができる。
533 件の回答



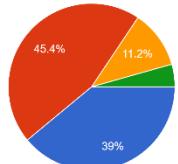
Nº 8 なかよし学級（がっこう）との活動（か...しく（たのしく）活動（かつどう））ができる。
644 件の回答



Nº 9 だまって、最後（さいご）まで清掃（せいそう）にとりくんでいる。
532 件の回答

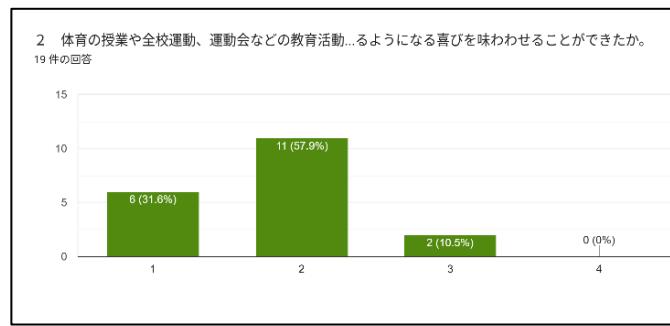
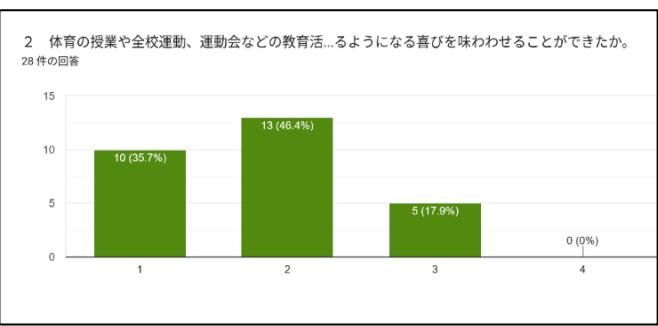
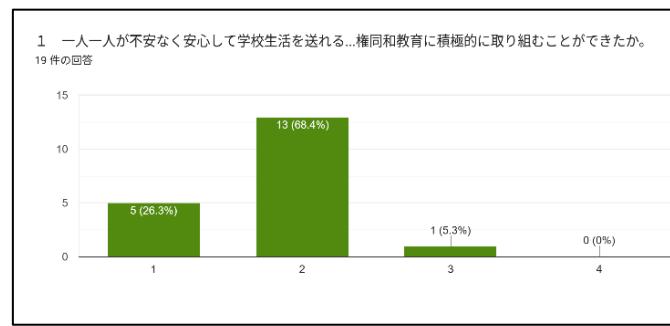
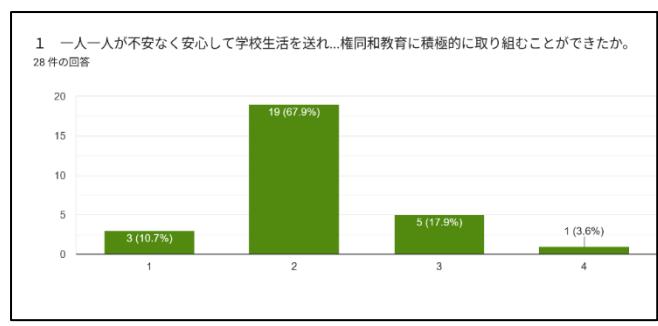
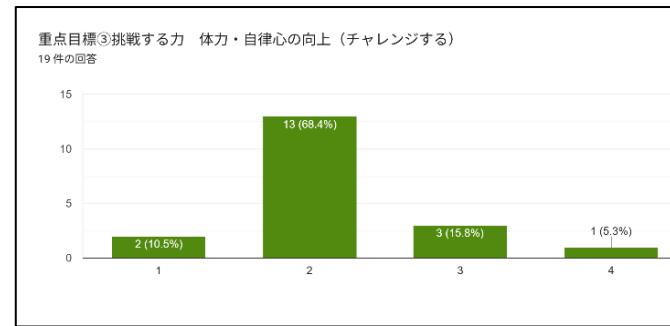
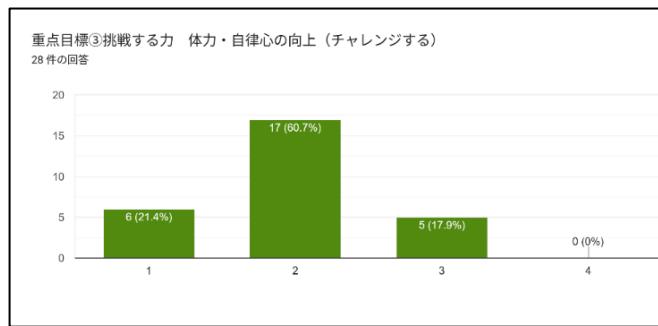
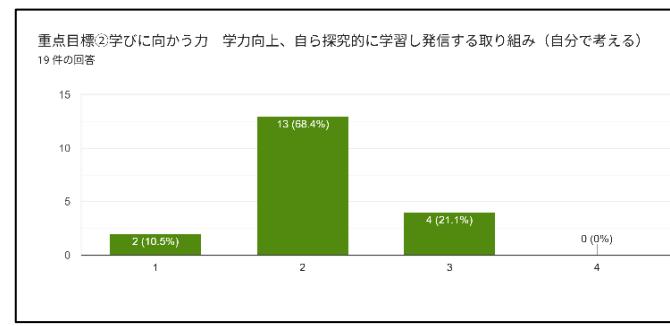
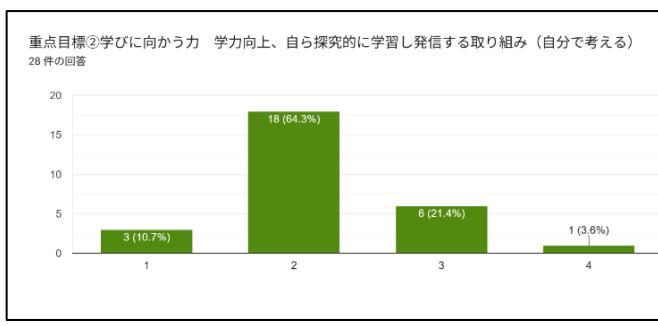
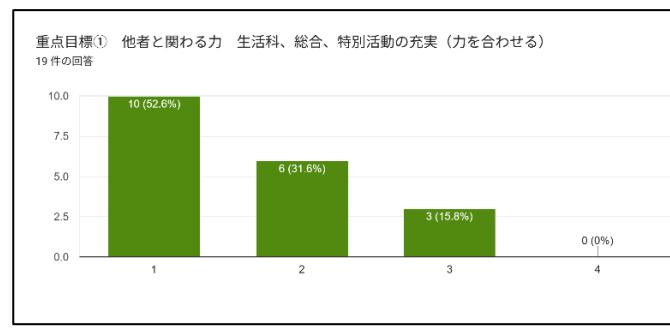
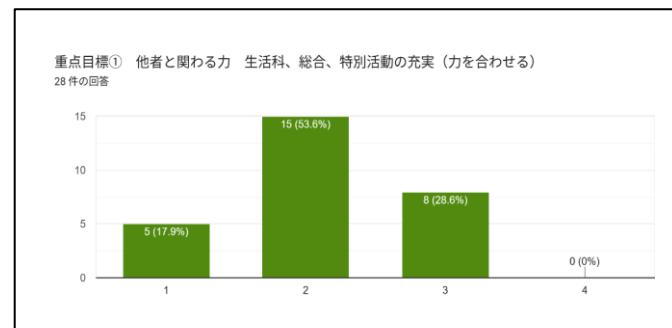


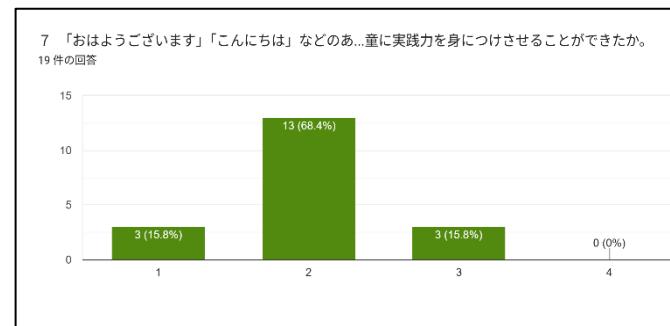
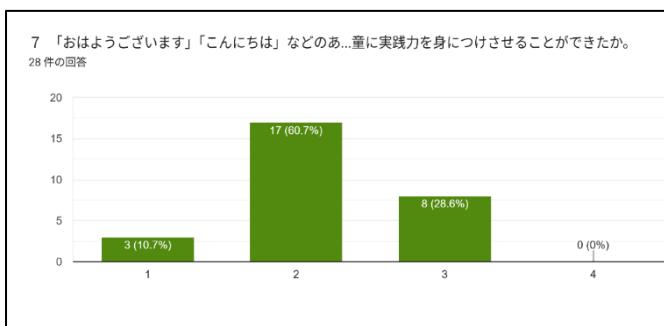
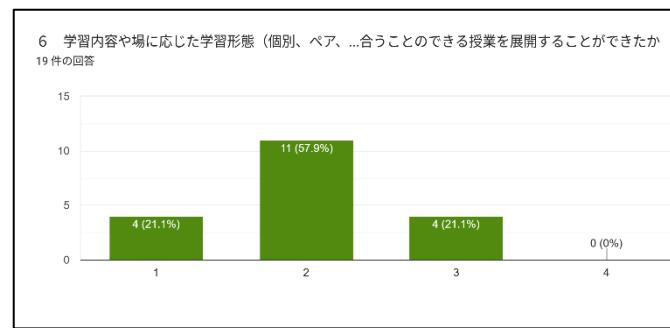
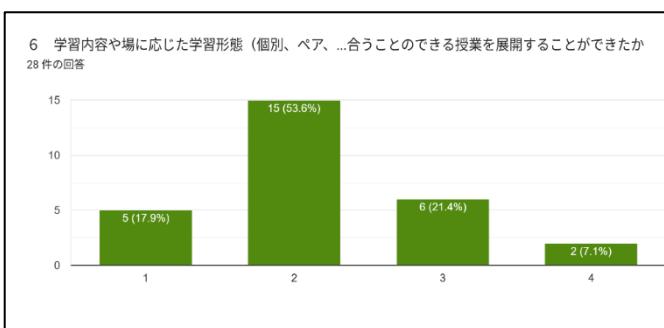
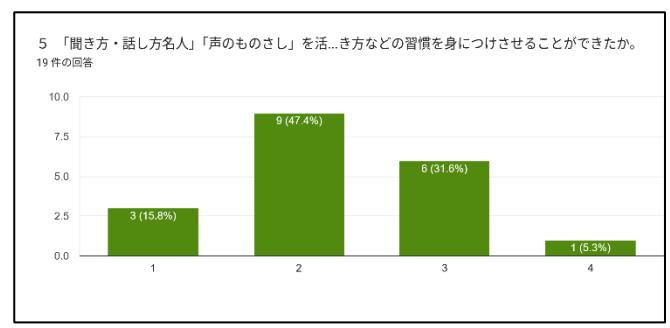
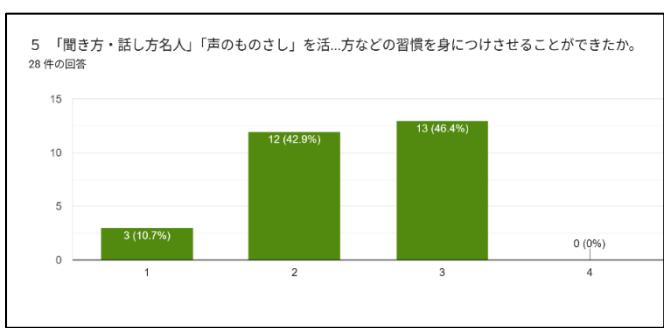
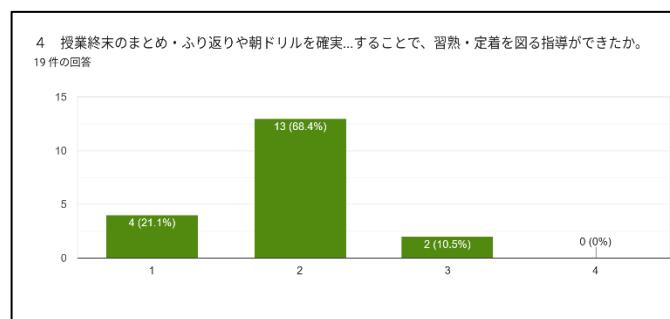
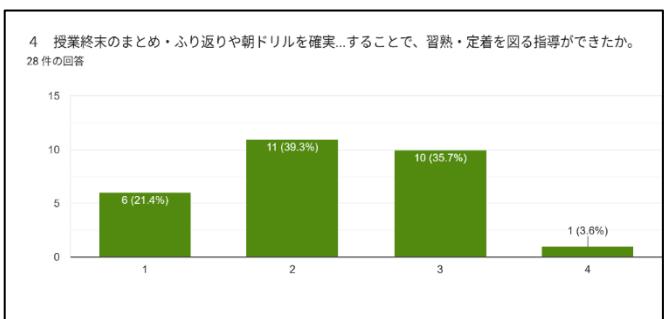
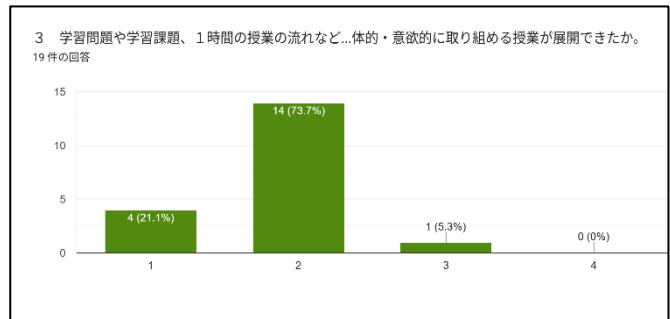
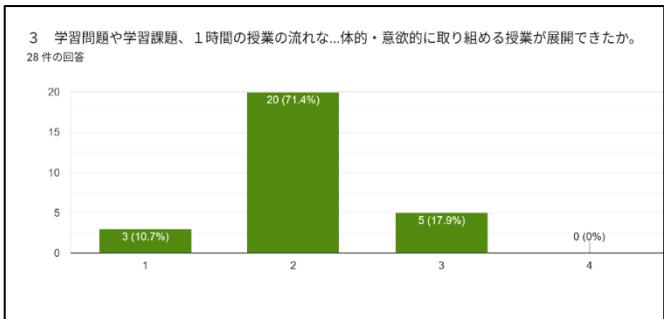
Nº 9 だまって、最後（さいご）まで清掃（せいそう）にとりくんでいる。
641 件の回答



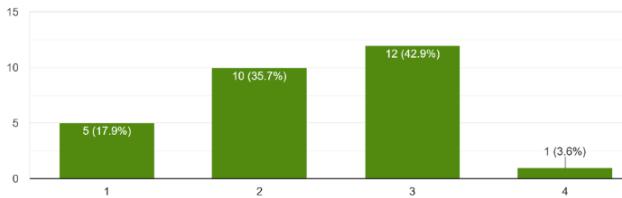
No.2 教職員による学校自己評価

【1学期】

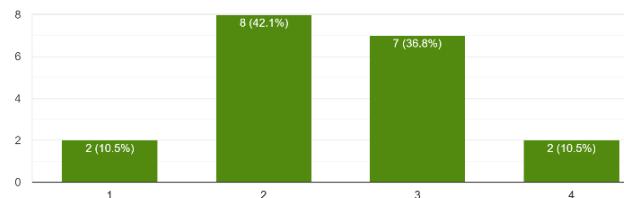




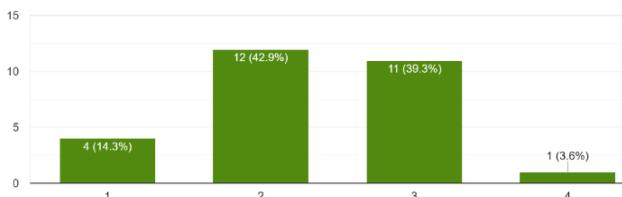
8 「なかよし学級活動」を、児童同士の心の交流...ための場として位置づけることができていたか。
28件の回答



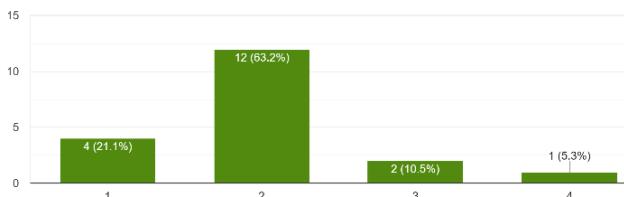
8 「なかよし学級活動」を、児童同士の心の交流...ための場として位置づけることができていたか。
19件の回答



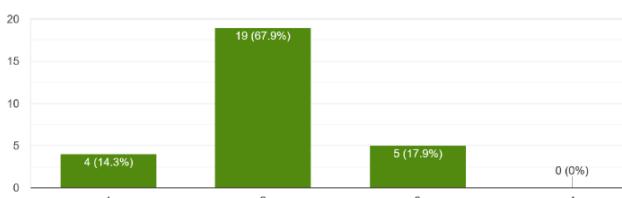
9 清掃や児童会の当番活動を継続して行うこと...で働くことの大切さを味わわせることができたか
28件の回答



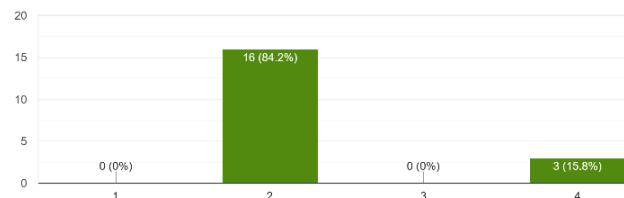
9 清掃や児童会の当番活動を継続して行うこと...で働くことの大切さを味わわせることができたか
19件の回答



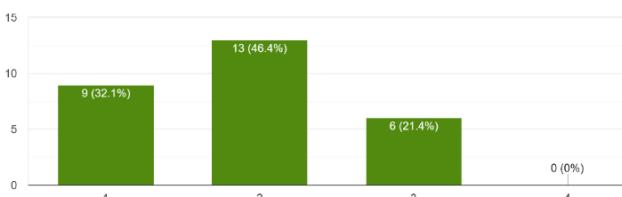
10 授業改善を意識した授業や児童一人一人を...・学級経営について保護者に理解してもらえたか
28件の回答



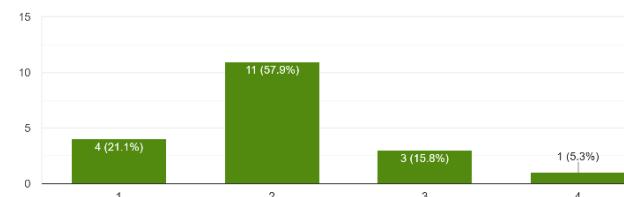
10 授業改善を意識した授業や児童一人一人を...・学級経営について保護者に理解してもらえたか
19件の回答



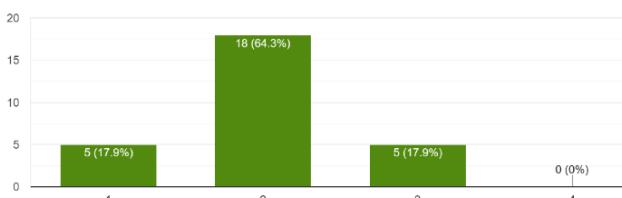
11 「学校だより」、ホームページ、「学年だよ...子について保護者・地域に伝えることができたか。
28件の回答



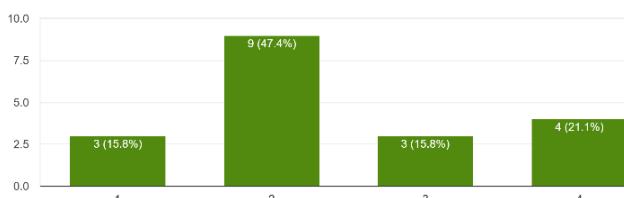
11 「学校だより」、ホームページ、「学年だよ...子について保護者・地域に伝えることができたか。
19件の回答

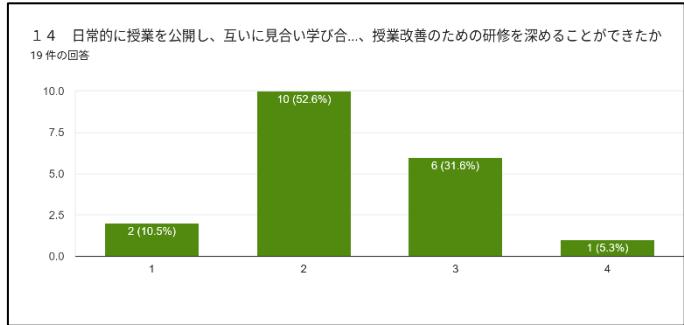
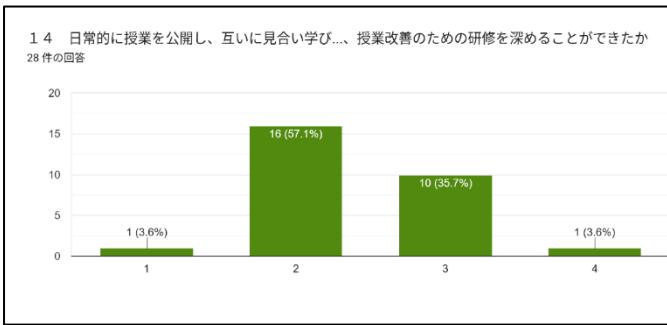
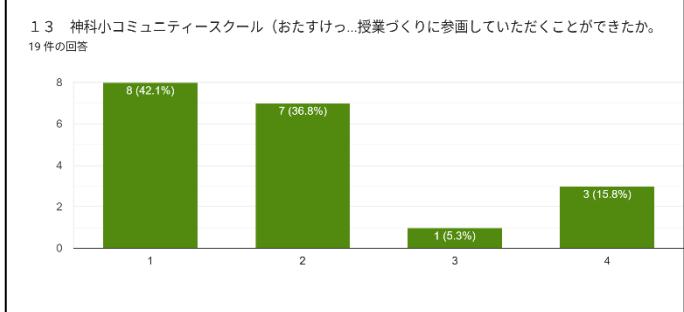
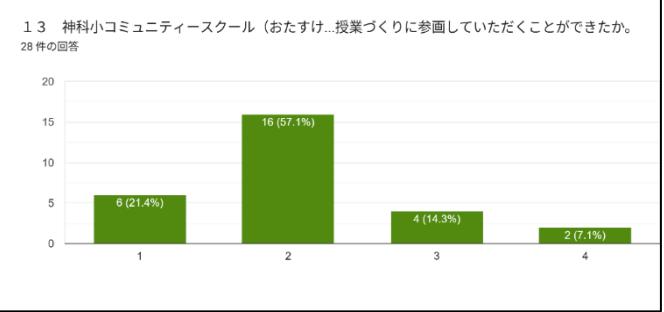


12 ふれあい隊の方々やP T Aと協力して、児童...点検を行ったりして児童の安全確保に努めたか。
28件の回答



12 ふれあい隊の方々やP T Aと協力して、児童...点検を行ったりして児童の安全確保に努めたか。
19件の回答





【2学期の振り返り（記述より）】

2学期は、神科小まつりや音楽会、理科の体験的学習などを通して、子どもが役割を意識し互いに協力して取り組む姿が多く見られた。見通しをもたせた指導やスマーリステップの支援により、「できた」という実感が学習意欲につながった。一方で、自ら課題を見いだし発信する力や、あいさつ・清掃など基本的な生活習慣の定着、教職員同士の学び合いの在り方に課題が残った。

【成果】

- ① 神科小まつりでは、支援級が協力して製品づくりやポスター作成を行い、当日は役割を果たしながら接客を楽しむ姿が見られた。
- ② 音楽会・学年行事では、早期から見通しをもたせ、家庭や原級と連携することで、安心して参加できた児童が増えた。
- ③ 理科では、学習問題→実験・観察→まとめの流れを意識し、実習や川の体感学習など、理解を深める授業が行われた。
- ④ 体育では、ルールを工夫したゲームにより、運動が苦手な児童にも笑顔や意欲的な参加が見られた。
- ⑤ お助けっこ隊や地域の方の支援により、校外学習や栽培活動など学びが広がった。

【課題】

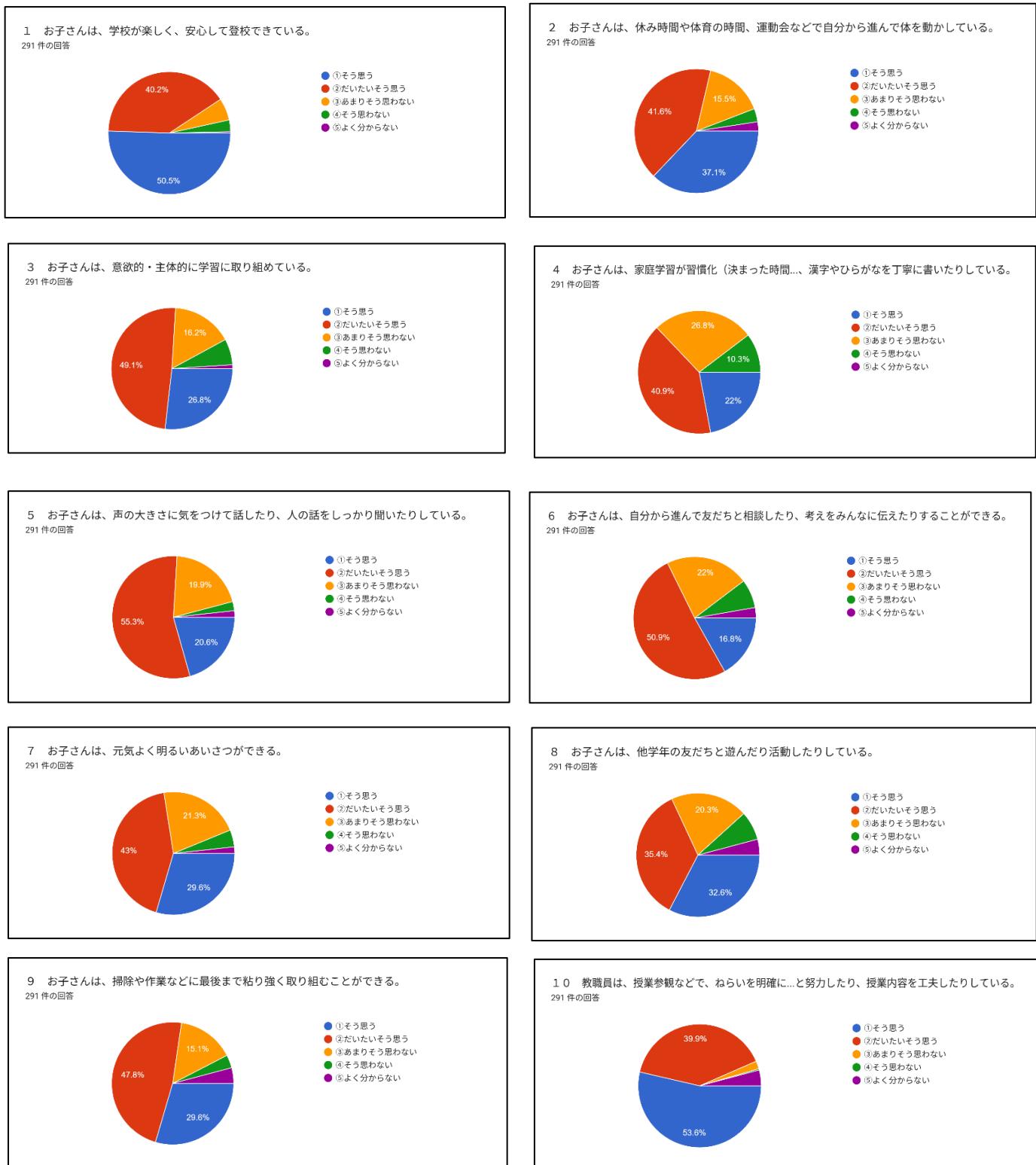
- ① 主体的に考え、発信する場を意図的に組み込む必要があり、学年・学校全体で共通の型をもつことが、今後の課題である。（「教えて」と依存する姿が見られた）。
- ② あいさつや返事、無言清掃など、学校生活の基本が場面によって徹底されていない。
- ③ 授業参観や実践交流の時間が限られ、教職員全体で学び合う機会が十分確保できなかった。

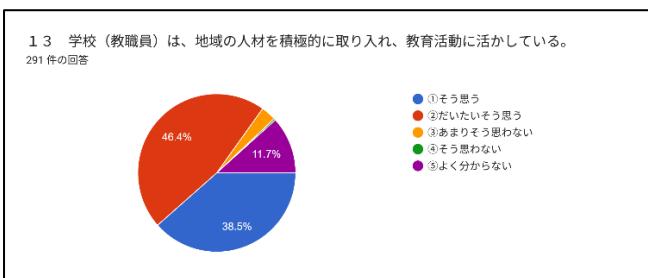
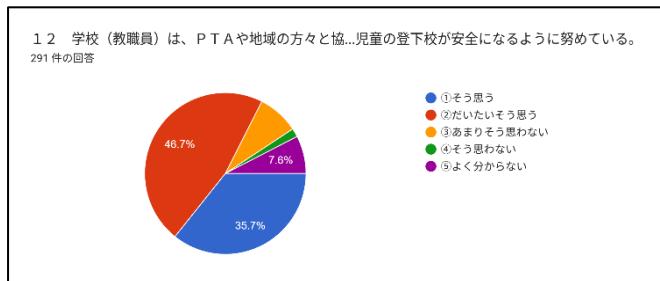
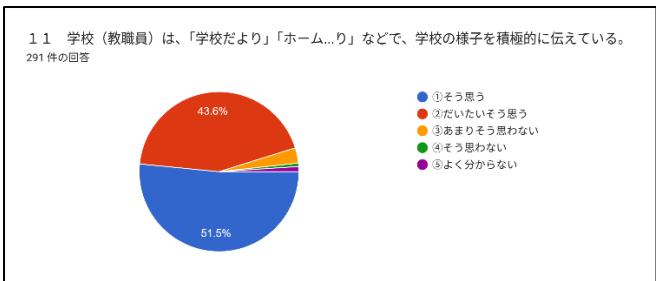
【来年度に向けて】

① 主体的に考え発信する場面の設定

- ② 生活指導・言葉かけの共通理解 以上の2点を、来年度の重点として共有したい。

No.3 保護者による学校運営に関するアンケート(12月実施)





保護者アンケート（自由記述）

1 教育活動・関わりへの評価

- 子どもが安心して登校できている
- 担任の丁寧な関わりや迅速な対応への信頼
- 学級通信・日常的な発信が安心感につながっている

2 指導の在り方・言葉遣い

- 一部の指導や言葉遣いに不安の声
- より安心できる指導の在り方への期待が寄せられている→ **教職員全体での共通認識が必要**

3 学校生活のルール・連絡

- 生活ルール（髪型・スマホ等）が分かりにくい
- 指導に差があるとの受け止め
- 配信が多く、重要度が伝わりにくい

4 安全・配慮（環境・多様性）

- 施設・設備の安全面への不安
- 防犯・衛生環境の改善要望
- 合理的配慮が自然に受け止められる風土づくりへの期待

【まとめ】

- 学校全体への評価は高い
- 課題は「**指導の在り方**」「**共通理解**」「**環境整備**」
- 小さな声を見逃さず、改善につなげることが求められている

三者アンケートの【共通点の考察】

児童・教職員・保護者のいずれのアンケートからも、「学校は安心でき、取り組みの成果は実感できている一方、学校全体での共通理解や主体性の育成には引き続き課題がある」という共通した認識が見られた。

(1) 共通して見られた【成果】

① 安心して過ごせる学校づくり→ 安心感を土台にした教育活動が定着しつつある

- ・ 児童：行事や授業を「楽しい」「参加できた」と感じている
- ・ 教職員：見通しをもたせた指導で、落ち着いて活動する姿が増えた
- ・ 保護者：子どもが安心して登校している、担任の対応が丁寧

② 行事・体験活動を通した成長→ 体験的な学びが、自己肯定感や意欲の向上につながっている

- ・ 役割を意識して協力する姿
- ・ 「できた」という達成感
- ・ 学校・家庭・地域と連携した取り組み

③ 教育活動の方向性への評価→ 学校の教育方針そのものは支持されている

- ・ 授業改善や支援の工夫が見える
- ・ 学校全体としての取り組みは概ね高評価

(2) 共通して見られた【課題】

① 主体的に考え、発信する力→ 「考え方させる・任せる」場の設定が不足

- ・ 児童：自分から課題を見つけたり発信したりする場面が少ない
- ・ 教職員：教師主導になりがち
- ・ 保護者：子どもが受け身になっているのではという不安

② 指導や生活面の共通理解→ 学校としての基準・姿勢の共有が不十分

- ・ あいさつ・清掃・言葉遣いなどに差がある
- ・ 指導の仕方が教職員によって異なるという受け止め

③ 学校からの発信・分かりやすさ→ 「伝えている」と「伝わっている」のズレ

- ・ 生活ルールが分かりにくい
- ・ 情報が多く、重要度が伝わりにくい

(3) 最終評価

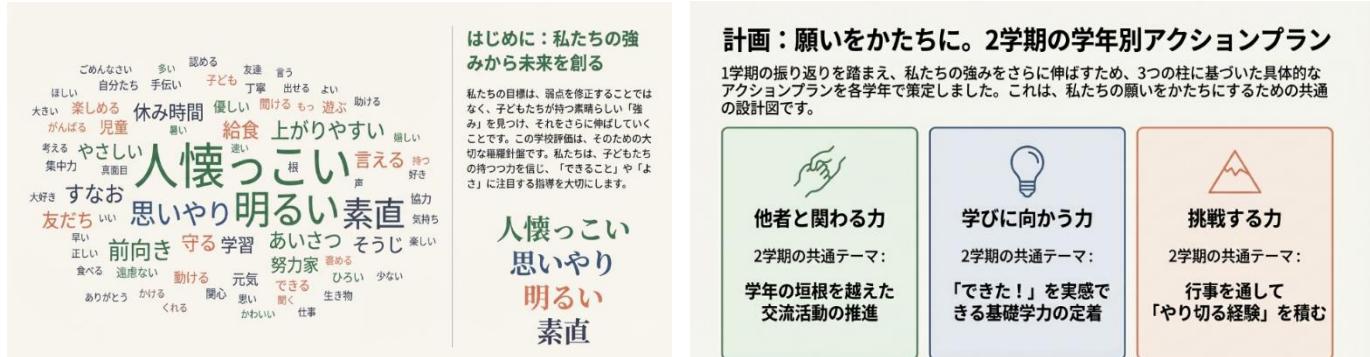
三者アンケートを通して、学校の取り組みは、子どもたちの安心感や成長につながっていることが確認できた。一方で、主体性の育成、生活指導や指導観の共通理解、情報発信の在り方については、学校全体で修正・改善していく必要がある。

これらの課題を踏まえ、三者アンケートで共通して示された「主体性」と「共通理解」を、来年度の重点として全教職員で共有していく。

2学期の方策から来年度の展望へ

本校では、「神科小学校みんなが幸せプロジェクト～子どもも先生も、笑顔で育つ学校へ～」を合言葉に、毎日の教育活動に取り組んできました。2学期は、学校の教育の柱である「3つの力」を大切にしながら、子どもたちが安心して学び、友だちや先生と関わり、自分らしさを発揮できる学校を目指して、教職員が力を合わせて実践を重ねました。

本報告では、2学期の取り組みを振り返り、見えてきた成果や課題を整理し、来年度につなげていきます。
子どもたちの成長の様子と、学校全体で大切にしてきた「安心」を土台とした取り組みの歩みをお伝えします。



【2学期の学年別アクションプラン】

		【他者と関わる力】 生活科・総合・特別活動の充実（力を合わせる）	【学びに向かう力】 授業力向上・自己実現的に学習し発信する取り組み（自分で考える）	【挑戦する力】 体力・自律心の向上（チャレンジする）	
1年	2学期に取り組みたいこと 大切にしたいこと	学年の煙で育てたサツマイモやボーボーンの収穫、収穫祭の持ち方を話し合ながら、これまでの取り組みを学年全体で兎退す場を持つようにする。また、春から育てた自分のアサガオをどのようにしてまとめて残していくか、みんなでアイデアをだし合い、支えていきたい。	1学年という発達段階にあわせ、基礎基本的な学力の定着を確実にはかるよう、一斉授業尾なかでも個別の支援の充実を図っていく。先生や友達の話を「聞く」ことを柱にし、保護者にもできるだけ学年の取り組みをおたより等で発信していく。	できること、得意なことを大切に、お互いに学び教えあい、みんなひとりひとり違ついことを確かめ合い、個々が自分にあわせた体力・自立心の向上を目指せる取り組み（体育での課題づくり）を進めていく。	
	子どもや職員にどんな笑顔が生まれるか（願い）	生活科中核活動の学習における子どもの笑顔・植物（命）の成長の驚きとうれしさの笑顔・病気や肥料など、お互いの命を大切に育てた時の笑顔・収穫のときの達成の笑顔・お礼の気持ちを収穫した喜びを分け合える笑顔	新しい学習を理解掌握了したうれしさと笑顔を少しでも引き出せるように、大切な基礎基本的な学習への取り組み方も含めて次の学年にもつながる支援指導を重ねていく。取り組んだ結果や時間ごとの授業で「できた」「わかった」と実感できる時間や場所を意図的に設けていく。学校でのこうした取り組みを家庭にもおたより等で伝え、子ども、担任、保護者と一緒に喜びを共有していく。	体力的な個人差を全体で認め合うなかで、個々の成長を実感できる積み重ねを繰り返しながら、どの子も体力・自立心の向上意欲が持ち続けられるように配慮していく。特に体力面では「楽しい」活動を前面に、学級学年で歩調をあわせて進めていく。	
2年	2学期に取り組みたいこと 大切にしたいこと	年度末のクラス替えを見据え、合同の授業をしていく。体育、生活、音楽から取り組み、クラスの垣根を低くしていく、他クラスとの交流の場面を増やしていく。	たとえば、ひっ算や丸算など、高学年に向けて教科書の土台となる内容が極めて多いため、きちんと定着するまでがんばろうと思える授業づくりや、「できた」という思いをたくさん持てるような授業づくりを行い、学力の土台作りをしっかり行っていく。	できたり！という自分の成長を感じることができる場面を多く設定したり、評価の場面が実感の伴ったものにすることで意欲の向上が見られたため継続したい。学習内容によりスマートルーチンによる進め方をする。	
	子どもや職員にどんな笑顔が生まれるか（願い）	クラスの絆を超えて一緒に活動できた笑顔。一緒に焼き芋ができる笑顔。心を一つにして音楽会の演奏ができたときの笑顔。	「できた！」ほめられた！が大きなモチベーションになる児童が多いため、教師の側が積極的に実施し、お互い笑顔が確認できる機会を増やしていく。	失敗しても再挑戦できる子どもたちの人間関係がある学級経営を目指す。失敗を笑わない心、くじけず再チャレンジできる心を育てることがお互いの実績につながる。	
3年	2学期に取り組みたいこと 大切にしたいこと	2学期中核となる総合的な学習の時間の活動「伝統野菜『山口大根』を育てよう」	3年生段階では、「自分で選ぶ？計画する？やってみる？振り返る？」のサイクルを、教師と一緒に経験することを大事にしたい。普段の授業の中で、教師が探究のたねをまく。	体育「鉄棒」「キックベース」できなくとも「挑戦したこと」を仲間や教員が認める。行事「音楽会」「社会体操」等の場面で、失敗があっても「勇気を出してやった」ことが拍手される...経験を積む。	
	子どもや職員にどんな笑顔が生まれるか（願い）	山口大根の学習で生まれる子どもの笑顔・芽が出たときの発見の笑顔・友だちと協力するときのなかまの笑顔・地域の人とつながったときの誇りの笑顔・収穫のときの達成の笑顔・発表で伝えられたときの自信の笑顔	興味・疑問を自分の言葉で出すことからスタートし、教師は子どもの「どうして？」「なぜ？」に寄り添う。その中で子どもの興味や関心は広がり、挑戦する姿や笑顔が生まれていく。	「結果」よりも「挑戦の過程」を認める教師や仲間からの声かけが、3年生にとって「自分っていいな！」「自分OK！」と感じられるような自己肯定感を育むことにつながる。	
4年	2学期に取り組みたいこと 大切にしたいこと	明るいあいさつを交わすことで、1日の始まりが明るくなる。お互いに笑顔になる。在校は担任とハイタッチで帰る。	調べたことを知らせることで知識が共有できる。その子らしい学びの良さを見つけることができる。	自分から進んで行っている（係活動、委員会活動、運動、清掃など）子を認めることで、自主性を育んでいきたい。	
	子どもや職員にどんな笑顔が生まれるか（願い）	学年みんなで協力して、高原学習・音楽会を成功させよう！	どんな時も自分の考えを持とう。（さらには発信できるようになろう。）（友達と同じでもいいよ。）（どんな時もお客様ではなく、自分が主に参加できるようになろう。）	新しいことに挑戦し、新しい自分を見つける。〈体育でも音楽でも児童会でもまだやったことがないことにどんどん挑戦しよう。〉（失敗したっていいじゃん！）	
5年	2学期に取り組みたいこと 大切にしたいこと	子どもや職員にどんな笑顔が生まれるか（願い）	・自分自身がやり切ったという達成感を感じられる。 ・仲間と協力し合う良さ、仲間のすばらしさを感じられる。 ・教師も子どもも一体となってやり切った団結感を感じられる。	・考え方を持つことができた自分に自信が持てる。 ・友達とも意見交換することによって、自分と同じ考え方を見つけることができ、それは安堵感にもつながるだろう。	・挑戦しているかっこいい姿を見て、みんな笑顔になれる。（教師も友達も、そして一番は自分自身が。）
6年	2学期に取り組みたいこと 大切にしたいこと	・音楽会・連合音楽会 学年みんなでひとつになる。 ・ルールやマナーを守る。（日常生活から修学旅行に向けて）	・中学進学を意識して・・・自身の授業態度、学習に向かう姿勢、意識を高めていく。 ・自主学習の向上を図る。（自分に必要な努力）	・児童会後半戦。自分たちは学校に何を残していくか。 6年生としてのもうひと頑張りをする。5年生にバトンタッチ。	
	子どもや職員にどんな笑顔が生まれるか（願い）	みんなの大事な思い出になる。みんなが楽しい。みんなが気分がいい。みんなが幸せ。	努力のできる自分を育てる。頑張ることの大切さを知り、頑張れる自分に気づく。自信をもって卒業、進学していく。	・「まだまだ自分たちはできる」「もっともっとできる」と最後の最後まで粘る！ ・音楽会、神科小まつり（ふれひまショッピング）、各学年の諸行事への参加 ・はじめてのこと、わからないこと、苦手なことにも少しづつ挑戦できるような場の設定と支援の工夫	
ふれひ	2学期に取り組みたいこと 大切にしたいこと	・生活単元学習、自立活動の充実 ・音楽会、神科小まつり（ふれひまショッピング）、各学年の諸行事への参加	・個人に応じた継続的な学習計画と、それに基づいた教材準備や環境設定	・自分や自分の手をかけたことが認められる喜び ・挑戦を楽しむ姿 ・結果だけでなく過程を大切に	
	子どもや職員にどんな笑顔が生まれるか（願い）	・個に応じて形態は異なるが、参加できたり、一緒にできたという達成感 ・活動を通して他者理解をし、よりかかわりが広がったり深まること	・「できる」「わかる」という自信や自己肯定感の向上	・一人の子も見捨てず、諦めず、粘り強く、子どもの伸長を信じて情熱的の灯火を心に宿す。	
専科	2学期に取り組みたいこと 大切にしたいこと	・相手（特に人前での表出が苦手な仲間）の声を聞くことや、仲間や場に心を寄せることに意識を向かせたい。そのための工夫、準備をしていく。	・考え方とするきっかけ（種）を与える、1時間の中の学習形態の工夫を施し、その子なりの表現方法を尊重する。		

実践例（低学年）：体験と協働で育む「学びの芽」

低学年では、すべての力の土台となる「人との関わり」と「やってみる楽しさ」を重視。体験的な活動を通して、学びの芽を育んでいきます。



収穫祭を通した「協力の喜び」

(サツマイモやポップコーンの収穫祭に向けた話し合いと協働)



合同授業による「クラスの垣根を越えた関係づくり」

(クラス替えを見据え、体育・生活・音楽で他クラスとの交流を増やす)



山口大根の探究学習で「挑戦のサイクルを体験」

(「進ぶ→計画→実行→振り返り」のサイクルを教師と共に経験する)

実践例（高学年）：自律性と社会性への「新たな挑戦」

高学年では、より高いレベルの自律性と、学校のリーダーとしての役割意識を育成。仲間と協力して大きな目標を達成する経験を重視します。



「自分のためになる自主学習」への意識改革

(自分から仕事を見つけ、自分のためになる学習に取り組む姿勢を育てる)



高原学習で「仲間と協力しやり切る達成感」

(学校行事を通して、仲間と協力する素晴らしさと団結力を感じる)



最高学年として「学校に何を残せるか」を考える

(児童会活動の後半戦。卒業を意識し、自分たちが学校のためにできることを考え、実行する)

全校で目指す合言葉

これらの取り組みを全校の力にするため、2学期は私たち児童と職員が同じ思いで取り組める共通のキャッチコピーを掲げます。

笑顔と協力で挑戦し、やり切ろう！
挑戦と協力で育む笑顔の輪
やり切る喜びを、笑顔でつなごう

今年度の取り組みについては、児童・教職員・保護者のアンケート結果をもとに、2学期末に振り返りを行いました。

2学期評価の全体像：三者アンケートから見たこと

学校は安心できる場所であり、取組の成果は実感できている。一方、**主体性の育成と学校全体での共通理解**には、**共通の課題**が見られる。



成果 Noto Serif JP SemiBold

- 安心感を土台にした教育活動の定着、行事や体験活動を通した子どもの成長



課題 Noto Serif JP SemiBold

- 「教える」から「考えさせる」への転換、指導や生活ルールにおける一貫性の確保

児童の声：学校生活は「楽しく、安心できる」が9割以上

非常に高い肯定率を維持していますが、1学期からわずかな変化も見られます。

問1：学校は楽しく、安心して生活を送ることができる



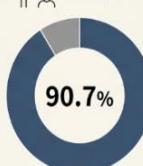
問3：授業はわかりやすく、楽しい



保護者・職員の声：子どもたちの「安心」は共通の認識

保護者・職員ともに、子どもたちが安心して学校生活を送っていることを高く評価しています。

保護者



問1：お子さんは、学校が楽しく、安心して登校できている

職員



問1：一人一人が不安なく安心して学校生活を送れ…
権利と教育に積極的に取り組むことができたか

成果①：ゆるぎない土台としての「安心できる学校」

児童・保護者・職員の三者が、学校の安心感を共通して高く評価。これが全ての教育活動の基盤となっています。

児童

93.6%

が学校生活を「楽しい・安心」と回答。
行事や授業を「楽しい」「参加できた」と実感。

保護者

90.7%

が「子どもが安心して登校できている」と回答。
「担任の丁寧な関わりや迅速な対応への信頼」

職員

「見通しをもたせた指導で、安心して参加できた児童が増えた」

成果②：体験的な学びが育む「自己肯定感と意欲」

神科小まつりや音楽会、地域と連携した体験活動が、子どもたちの協力する姿勢や達成感につながっています。



役割意識と協力

神科小まつりでは、児童が役割を果たしながら接客を楽しむ姿が見られた。



「できた」という達成感

スマイルステップの支援により、「できた」という実感が学習意欲につながった。



地域との連携

お助けっこ隊や地域の方の支援により、校外学習や栽培活動など学びが広がった。

課題①：主体性の育成 —「教えてもらう」から「自ら考える」へ

授業の満足度は高い一方で、子どもが受け身になり、自ら課題を見つけて発信する機会が不足しているという認識が三者で共通しています。

現状

88.8% 授業は楽しい

「子どもが受け身になっているのでは」という不安の声。

職員の自己分析

「教師主導の学習にとどまり、自ら課題を設定し発信する場面が十分でなかった。」「『教えて』と依存する姿が見られた。」

課題②：共通理解の醸成 —学校としての「当たり前」の基準は伝わっているか

学校生活の基本や指導方針について、職員間の徹底や保護者への伝達にばらつきがあり、一貫性の確保が課題となっています。

学校生活の基本



職員からの声：「あいさつや返事、無言清掃など、学校生活の基本が場面によって徹底されていない。」

指導方針とルール



保護者からの声：「一部の指導や言葉遣いに不安の声」「指導に差があるとの受け止め」「生活ルール（髪型・スマホ等）が分かりにくい」

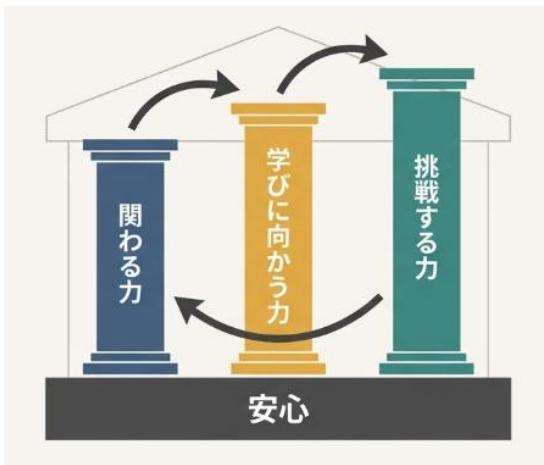
発信と伝達



分析：「『伝えている』と『伝わっている』のズレ」

その結果、学校が「安心して過ごせる場所」であり、行事や体験活動を通して子どもたちが成長していることについて、三者に共通した評価が見られました。子どもたちは、学習や行事を前向きに捉え、教職員は、落ち着いた学習環境が広がっていることを実感しています。また、保護者の皆様からも「安心して登校できている」という声が多く寄せられました。一方で、自分で考え、自分の思いを伝える力を育てるこ、生活や指導の場面での学校全体の共通理解、学校からの情報発信の分かりやすさについては、今後さらに工夫していく必要があることも明らかになりました。

グランドデザインの3つの力は「安心」という土台の上で相互に連携し、児童の成長を支えます



グランドデザインに示している「3つの力」は、「安心」という土台の上でつながり合い、子どもたちの成長を支えています。これまでの成果を大切にしながら、指導や生活面での共通理解をより深め、学校全体で支え合い、よりよい学校づくりを進めていくことが、来年度の大きな課題です。

これからも、子どもも教職員も笑顔で育つ神科小学校を目指し、地域・保護者の皆様とともに歩んでまいります。